

会議録

会議の名称	西東京市地域情報化計画策定審議会（第4回）
開催日時	平成25年1月22日（火曜日）午前10時00分から正午まで
開催場所	田無庁舎3階 庁議室
出席者	委員：小林清澄会長、渡邊博子副会長、池田佳代委員、石田朋子委員、浜 昱子委員、樋口信太郎委員、福田豊委員 事務局：佐藤情報政策専門員、池田企画部長、渡部情報推進課長、河野情 報推進係長、金本情報推進課主任、高枝情報推進課主事
議題	(1) 第2期地域情報化基本計画施策の実施状況について (2) その他
会議資料の 名称	資料1 第3回西東京市地域情報化計画策定審議会会議録 資料2 第2期地域情報化基本計画の位置づけ 資料3 第2期地域情報化基本計画での評価指標 資料4 第2期地域情報化基本計画施策実施状況について 資料5 西東京市市民意識調査報告書（平成24年9月） 資料6 第2期地域情報化基本計画指標達成状況について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>小林会長： 定刻となりましたので、ただいまから、第4回西東京市地域情報化計画策定審議会を 始めます。</p> <p>議題に入る前に、第3回会議録について、事務局から事前に各委員へメールにより送 付し、訂正等ある箇所については内容を修正し作成されたものが、お手元にお配りした 資料1第3回会議録です。訂正等がなければ確定版とさせていただきたいと思いますが、 何かございますか。</p> <p>修正等がないようなので、第3回会議録について、承認します。 議題に入る前に、事務局から資料の説明をお願いします。</p> <p>○事務局： (資料の説明)</p> <p>小林会長： 議題に入ります。 「第2期地域情報化基本計画施策の実施状況について」、説明をお願いします。</p> <p>情報政策専門員： (第2期地域情報化基本計画の位置づけ及び評価指標について説明)</p>	

小林会長：

事務局から説明のありました第2期地域情報化基本計画の位置づけと評価について、何か御質問、意見等がありましたらお願いします。

資料2をみると、第1期地域情報化基本計画では「地域情報化の推進」が「協働で拓くまちづくり」に含まれていますが、第2期地域情報化基本計画では、まちづくりの6つの方向を支えることに考え方が変わったという認識でよいのですか。

情報政策専門員：

総合計画は、10年を計画期間として、平成16年度に策定されています。第2期地域情報化基本計画を策定するときも有効な計画でしたが、第2期の計画を策定する議論の中で、地域情報化計画は、総合計画全体を支えるインフラ（基盤）であるという考え方に整理しました。資料2の最後の頁がその考え方を表している図になります。

また、インフラによって総合計画を支えられたかどうかを直接表す評価指標がないため、まちづくりに貢献できたかどうか市民満足度の向上度合により検証することになりました。

小林会長：

インフラがうまくいっているかは、市民の方々に「使われているかどうか」が大事です。実際に施策が市民の方々、事業者の方に使われたかどうかを示す指標があるのでしょうか。

情報政策専門員：

使われたかどうかを一つの指標とすることは、検討する価値があると考えます。

情報化が指すものは、新しいITのツールだけではなく、チラシ、新聞、放送なども情報化の一つのツールとなり得るため、それらを統合してどう評価するかが難しいところです。

池田委員：

ネット上でのコミュニケーションでいうと、アクセス数やリンク数を調査することで評価もできるのではないのでしょうか。

情報政策専門員：

地域情報化そのものを表す評価指標は、明確なものがありませんので、いくつかの重要施策に対して、それぞれ数値目標を立て、達成させていくことも方法として考えられます。アクセスカウントを上げる、利用率を上げるということは、各施策の段階では評価指標となり得ますが、地域情報化全体を範囲としたときの評価が難しいところです。

福田委員：

IT化やITの利用推進の目標は、問題解決にあると考えます。産業システム、経済システム、コミュニティにおいても同じで、コミュニティでは人々が抱えている日常的な諸問題をどのように解決に役立つかが重要で、地域情報化でも大きな柱になってくると考えます。全体的なコンセプトとしては、問題解決にどれだけ貢献したのかということが

評価の軸となり、適切な表現であると考えます。

小林会長：

第2期計画の検討の中で、地域情報化により問題解決をすべき具体的な課題はあったのでしょうか。

情報政策専門員：

その当時の市が抱えている問題はありましたが、地域情報化の推進により特定の問題を解決するという掲げ方はしていません。

福田委員：

コミュニティや生活分野では人々が抱える問題は千差万別で、それらに対してどのような解決手段を提供するか、あらかじめ問題を設定することはできないと思います。コミュニケーションをどのように活性化させて、人々の総合的な活動を支えるかということについて、定量的な評価は難しいと思います。

定量的な評価は、コストが削減できたかなどの側面での評価としては有効ですが、新たな方法を提案する施策に対しては、有効ではないと思います。

地域情報化により具体的に解決すべき課題を最初から設定するのが適切かどうかは、審議会で議論が必要だと考えます。

浜委員：

指標を目標として設定し、できたかできなかったかアンケートなどで把握することは必要なのではないのでしょうか。まちづくりの6つ方向性での成果指標、活動指標の視点で一定程度の目標値を設定することは必要だと思います。

福田委員：

何を目指して地域情報化計画を立てるのかについては、企業経営、産業システムの場合と違い、コスト削減、効率の向上のように定量的な測定はできないので、非常に重要です。

定量的に測ることができない計画について、市民の方々に活動を認知してもらい、参加していただくためには、何らかの成果を見せる努力をしなければならないと思います。そのときには一応の数値として説明できることは重要であると思います。

小林会長：

地域情報化という観点で全体的にどれだけ効果があったのか把握することは難しいと思いますが、実施された施策がどれだけ使われたかなど、実績的なものは残しておく必要があるのではないのでしょうか。実績によって次期の計画において判断材料となり、次につながっていくと思います。

情報政策専門員：

行政の事業というのは、行政評価で各々の施策毎に目標を設定し、PDCAにより評価しながら実施しております。地域情報化基本計画全体を評価するのは難しくても、計画の下にいくつかの施策があり、一つ一つには目標が定められており、計画期間内で実施さ

れ見直しなどもされておりますので、各施策の目標の達成率を総合的に判断することは可能だと思います。

樋口委員：

各施策、それぞれの目標達成率などについて、具体的なものがあると分かりやすいのではないのでしょうか。

情報政策専門員：

この後、第2期地域情報化基本計画の施策実施状況について、事務局から説明があります。

小林会長：

それでは、第2期地域情報化基本計画施策実施状況について事務局から説明を受けて、再度審議したいと思います。

事務局：

(第2期地域情報化基本計画施策実施状況について説明)

小林会長：

前の資料2、3を含めて、事務局から説明のありました第2期地域情報化計画実施状況について、何か御質問、意見等がありましたらお願いします。

福田委員：

資料4の見方ですが、項目の進捗状況で計画の欄の「実施」という項目と「実績」の欄の「実施」という項目は、どのような違いなのでしょう。

事務局：

計画の欄の「実施」という項目は、ある年度で実施されるという未来形の意味です。「実績」の欄の「実施」という項目は、示される年度から引き続き実施されているという意味になります。

福田委員：

具体的に「6-2-4 ICTを活用した市民参加手法の充実」で、進捗状況に「調査研究する」とありますが、結果のようなものは出ているのですか。

事務局：

平成23年度末時点におきましては、調査研究をしたという報告となっており、平成24年度以降に具体的にどのような調査研究をしたかヒヤリングを実施する予定です。

小林会長：

地域情報化には様々な施策がありますが、インフラの部分と、インフラの部分に乗せて実施される部分と並列になっていて、分かりにくいので、仕分けをしていただきたい。

情報政策専門員：

インフラを整備しようとする段階なのか、整備が終わり利用を推進しようとする段階なのか、分かるようにする整理は必要であると思います。

渡邊副会長：

成果指標でみるか、活動指標でみるかに直結してくる部分だと思います。

施策の結果として、数字が明確に上がっていた議会中継のインターネット配信のアクセス数は、満足度まで求めなくても、成果としては完結した内容といえます。一方でハローワークと連携した就労情報の提供は、就労に至った件数でみると人数的には少ないですが、ネット環境を通じてアクセスした人数はもっと多いと考えられますので、それぞれの施策毎に応じて、インフラ整備で終わるのか、利用するだけでよいのか、利用を含めた満足度までみる必要があるのか、区分けをしながら成果、実績状況を見ていかないとわからない部分があると実感しました。

第2期地域情報化基本計画では、12ページの記載にあるとおり、前回の市民意識調査の中から、市民の満足度で区分けし、重点改善分野などから施策に反映させていたので、満足度から読み取ることも必要になってくると思います。また、第2期計画の検討の中では重点改善分野に対して問題解決を図る意識を持ちながら策定に取り組んでいたと思います。

石田委員：

前日も指標をどのように設定するかでかなり議論があり、結局、市民の満足度を指標にした記憶があります。

小林会長：

施策の区分けと、指標の区分けをしてもらい5つくらいの大きなくくりにしてもらうといいのではと思います。

事務局：

区分けについての資料は検討させていただきます。

福田委員：

まちづくりの6つの方向性は、区分けの意味があると考えます。

事務局：

まちづくりの6つの方向性を支えるものとして、分類に近いものと考えます。確かに「6-3-1 住民票等自動交付機の設置」は、インフラ整備にあたり、先ほどお話しがありました「5-2-1 ハローワークと連携した就労情報の提供」と同列に数値化で評価するのは難しいと考えます。

福田委員：

地域情報化は、施策に対して横断的で分野総合的である特徴を持ちます。現在の情報技術が大きく進化した段階では、当たり前のツールとしてITが使用されているため、第

2期地域情報化基本計画の施策の中には、既に取り組みられているべき施策があると感じました。

情報政策専門員：

会長が先ほど言われていた区分けを整理すると見えてくるかもしれないと思います。

事務局：

おっしゃるとおり、ITを使う段階に入っていて、各課が独自でやらなければならない施策を集約し、支えるものが第2期の計画ですが、今後は、各課が考える施策を吸い上げて後押しすることもあると考えています。

福田委員：

審議会での意識としては、施策を吸い上げることが必要ということですか。

事務局：

吸い上げることで使うべきもの、当たり前やらなければならないことが見えてくると考えます。

小林会長：

どんなITツールがあるのかがベースとなると思います。

福田委員：

第2期計画ではPC（パーソナル・コンピュータ）が主たるツールでしたが、今回は新しいツールも考慮しなければならない段階かもしれないと考えます。

小林会長：

小中学校のネットワーク環境などのインフラは、第2期地域情報化で整ったという段階であるということで考えていいのですか。

事務局：

はい、そう考えていただいて構いません。

池田委員：

資料6の「環境にやさしいまちづくりを支える情報化」について、平成19年度からの向上度でマイナスとなっていますが、原因として何か想定されているものはありますか。

事務局：

この項目に関しては、所管課に確認したところ、正確な分析はできていないとのことですが、一昨年の震災、放射線、電力の関係で評価が上がらなかったと聞いています。

福田委員：

資料6に記載されている満足度の向上度が上がっているのは、IT化以外の要素もあつ

て上がっている可能性もあるということですか。

事務局：
そのとおりです。

小林会長：
市民意識調査は、総合計画のための意識調査ということによろしいですか。

事務局：
そのとおりです。

福田委員：
確認ですが、審議会の位置づけは、コンサルタント等が入って作成した案に対して、審議会でコメントをする形式で行くのか、本体の作業を市がプロジェクトチームなどで作成していくのか、確認しておきたいのですが。

事務局：
第2期地域情報化基本計画と同様にコンサルタントは入れずに、佐藤情報政策専門員の力を借りながら事務局の方で作成していきたいと考えております。現段階では、西東京市の現状等について御説明しておりますが、平成25年4月以降になりましたら内容につきまして、案を御覧いただき、審議会での議論を踏まえ、修正していきながら作成していきたいと考えております。

小林会長：
第2期計画の実施状況は、第3期計画の中にも含まれていくと思いますので、次回審議会までに第2期計画の実施状況のレベルが分かるようにしていただければと思います。
次に、事務局から審議会のスケジュール等について、連絡をお願いします。

事務局：
次回、第5回の審議会の日程につきましては、平成25年2月22日午前10時から庁議室にて開催させていただきます。
また、第6回審議会にて視察する場所につきましては、候補を出させていただきますので審議会にて御希望をうかがえればと存じます。

小林会長：
どのような観点で視察するかによりますが、日程調整の際に、委員の方々から視察する場所の候補について希望を聞いてもらい集約してください。
他になければ、本日の会議は、閉会といたします。
次回の議題は、総合計画の進捗状況等ということですので。
ありがとうございました。